

平成19年度SELHi研究開発実施報告書(概要)

- 1 SELHi 学校名 佐賀県立唐津西高等学校
- 2 研究開発実施期間 平成18年度 ~ 平成20年度 (第2年次)
- 3 研究開発課題：多読プログラムを基本に多様な言語活動を通して、4技能(リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング)の英語運用力の養成を目指す指導法・カリキュラムの開発

4 今年度の研究計画

多読プログラムを主軸に置いた高校英語シラバスの開発

- (1)易しめの「英語」教科書を使用、その後従来のレベルの「英語」教科書使用
- (2)効果的な教材の配列、選択

「英語による英語の指導法」の研究

- (1)「英語による英語の授業」の指導法研究
- (2)読解スキーマの活性の方策

- (3)効果的な補助教材(板書・音声教材・視聴覚教材)の使用法

多読によって得られたインプットを運用力に結びつける効果的なインテイク活動の開発

- (1)多読によって得られるインプットをインテイクに高める言語活動の開発と指導手順の体系化
- (2)「英語」と「OC」の体系的指導

佐賀大学との連携によるスピーキング・テストの開発・実施

- (1)"Common European Framework"を活用したスピーキング・テストの開発・実施

5 研究開発の内容と評価

多読プログラムを主軸に置いた高校英語シラバスの開発

- (1)易しめの「英語」教科書『Exceed English』を1学期間使用、2学期から従来、本校採択レベルの教科書『Voyager English Course』を使用した。
- (2)図書館の英語蔵書の充実と「朝の読書」の時間活用

【評価と反省】

・GTECの結果が示すように、リーディング、リスニングのスコアは伸びているがライティングのスコアが、グレード5・グレード4において昨年度より到達生徒が少ない。3年次には「リーディング」と「ライティング」の体系づけた授業を実施したい。

「英語による英語の指導法」の研究

- (1)「英語による英語の授業の指導法」研究
- (2)読解スキーマの活性の方策
- (3)効果的な補助教材(板書・音声教材・視聴覚教材)の使用法

【評価と反省】

・「英語」において2学期後半に、「英語の使用率80%」という目標は達成できたが、質的

な部分において指導法の向上を図りたい。

多読によって得られたインプットを運用力に結びつける効果的なインテイク活動の開発

- (1)多読によって得られるインプットをインテイクに高める言語活動の開発と指導手順の体系化
- (2)「英語」と「OC」の体系的指導

【評価と反省】

- ・音読に重点を置くことで、GTECの結果に見られるように「読む」・「聞く」運用力の養成には結びついているが、「書く」・「話す」技能の養成にはさらに指導法の検討が必要である。
- ・学校行事などによって月ごとの英語蔵書の貸出冊数にバラツキがあるので年間を通して毎月の貸出300冊程度、年間貸出総数3,000冊程度になるように努力したい。

佐賀大学との連携によるスピーキング・テストの開発・実施

- ・ALTの協力を得て、スピーキング・テストを開発・実施することができた。今後は更に"Speech Act", "Communication Strategies", "Can-Do" statementの確立へと結びつけたい。

6 生徒のコミュニケーション能力の向上と評価について

コミュニケーション能力の変容

「Oral Communication」におけるプレゼンテーションスキルの向上

- (1)生徒達にとって身近な話題「校内での携帯電話の使用」、「学校週5日制」、「高校生に制服は必要か」を通してディベートの基本的なルール、進め方を学んだ。
- (2)最終年度は、更に効果的なプレゼンテーションになるようにイラスト・写真・実物・パワーポイントなどのIT機器を活用を指導したい。
- (3)実用英語技能検定試験に関しては、これまでと比較して準2級・2級ともに合格者は増加している。

GTEC採択理由

- (1)高校生にあった語彙レベルであり、高校生の4技能の運用力試験を測定するのに適している。
- (2)絶対評価で、3年間にわたって技能別英語力の伸長度をみることができる。
- (3)「リスニング」・「リーディング」だけでなく、「ライティング」・「スピーキング」の能力も測定できるので生徒の「ライティング」・「スピーキング」への学習意欲を高めることができる。また、「速読力」・「読み」の正確さなどのスキル別の英語力を測定できる。
- (4)教材としてテクニカルドリル(ステップアップドリル)がついているので、試験実施後、問題集として活用することができる。

GTECに見るコミュニケーション能力

年度	平成18年度	平成19年度	
実施日	12月13日	12月18日	
受験者数	237名	229名	
平均	トータル	366.8	387.0
	Reading	124.7	145.6
	WPM	56.1	65.3
均	Listening	137.2	143.5
	Writing	104.9	97.6

【結果・反省】全体的には伸びていると考えることができるが、ライティングにおいてはスコアが落ち込んでいる。

ライティングの課題、授業の進め方(年間のシラバス、指導法)他のGTEC受験校などと詳細に比較検討し、今後の指導に活かしたい。

今後の指導目標

3年次

読むこと：語彙レベル3，000語程度の単語を用いて書かれた英文を1分間に100語程度のスピードで読み内容理解ができる。

聞くこと：語彙レベル3，000語程度の単語を用いて書かれた英文を1分間に100語程度のスピードで読まれた英文を聞き取ることができる。

書くこと：時事的・社会的な話題に関して自分の考えをわかりやすく整理して、100語程度の英文を書くことができる。

話すこと：「リーディング」の教科書程度の英文を読んで、英語を使って概略を説明し、内容に関する簡単な受け答えができる。

7 校内の英語教育（特に授業）の改善状況

公開授業の実施

(1)SELHi公開授業（11月7日）

「英語」（高平教諭）「英語」（諸江教諭）「英語」（中森教諭）「Oral Communication」（高田教諭）以上4授業を公開した。

(2)SELHi実地調査・公開授業（11月19日）

「英語」（諸江教諭）を参観頂き、指導を受けた。

指導法講習会の実施（3月21日：本校英語科職員10名参加）

2月19日（火）に中村信教諭の「英語」の授業をビデオで撮影し、3月21日（金）に「指導法講習会」を開催した。

8 研究開発組織について

校内SELHi委員会の実施

年度当初から時間割の中に校内SELHi委員会の時間帯を設定（毎週木曜日：4時間目）し、年間24回の会議を行った。

運営指導委員会の実施

第1回SELHi運営指導委員会：11月7日（水）

第2回SELHi運営指導委員会：11月19日（月）

第3回SELHi運営指導委員会：3月21日（金）

9 外部講師の講演、授業外活動などの記録

外部講師の講演

(1)SELHi講演会：「地球市民学講座」

・講演者：田辺 信氏（外務省総合外交政策局人権人道課）9月13日（木）

演題：「異文化理解」

・講演者：早瀬 博範氏（佐賀大学文化教育学部教授、本校SELHi運営指導委員長）3月4日（火）

演題：「楽しく、長く、英語を学ぶ」

(2)SELHi講演会：「英語教育学講座」

講演者：静 哲人氏（関西大学） 11月7日（水）

演題：「英語で進める授業に即した定期テストの作り方」

授業外の活動

(1)夏のイングリッシュ・キャンプ（1年生英語コース対象：平成19年9月6日～9月7日実施）

(2)佐賀県スピーチ大会コンテスト参加（10月7日、場所：三養基高校）

(3)他校視察：広島県立尾道東高校（10月26日）

(4)他校視察：京都府立京都日吉ヶ丘高校（11月29日）

(5)春のイングリッシュキャンプ（1年英語コース対象：平成20年3月6日～3月7日実施）

10 今後の研究計画

第三年次（平成20年度）研究

指導法の向上に努め科目間の体系的指導をさらに深めながら、学習意欲を引き出し運用力の向上を図りたい。